



タンチョウの標識調査

巻頭言 1

理事長 百瀬邦和

2014年度活動報告 2

タンチョウに足環を付けて個体を区別できるようにし、その鳥を追跡して観察することで、保護に役立てようというのが標識調査です。現在この調査は環境省のタンチョウ保護増殖事業の中でタンチョウ保護研究グループが行なっています。毎年6月下旬から約1ヶ月間、多くのボランティアの協力の下でヒナに足環を付けていますが、この足環付け作業以降が標識調査の本番です。これまでに452羽のヒナに足環を付けて追跡記録を集めていますが、その結果明らかになってくる寿命、あるいは死亡率、給餌場の利用の仕方などは、総数調査の結果とともに今後のタンチョウの増減や分散などを予測するための重要な資料です。現在足環が付いているタンチョウは全体の1割を少し超えたくらいですが、北海道では冬の給餌場という足環を読む条件に恵まれているため、かなり高い確率で足環を付けたタンチョウの確認ができます。

2015年度活動計画 5

調査活動報告 5

タンチョウ衝突事故 7

防止啓発チラシ

活動記録 8

タンチョウ保護研究グループでは標識を付けた個体の記録をホームページで公開し、また記録を整理した写真付きのファイルを鶴居と阿寒の観察センターに置いていますが、最近になってこれらの資料を見た方々から時々観察記録が送られてくるようになってきました。自分の見た個体がどういう由来で、その後何処へ行くのか、よく知ることは好きになる始まりでもあります。多くの人がタンチョウに興味を持ち、さらに好きになって下さることで保護が進むことにもなります。足環を付けたタンチョウには、ひときわご注目をお願いします。

2014年度活動報告

★調査研究活動

＜タンチョウ繁殖状況調査＞

飛行調査は十勝・釧路地方で4月23日～26日の連続した4日間で終了し、飛行時間は計25時間38分でした。根室半島地区、風蓮湖・風蓮川地区、野付半島地区、オホーツク地方については調査できませんでした。

飛行調査の結果に地上からの観察や聞き取りなどの記録を合わせると、十勝地方で79、音別・白糠地区で11、釧路湿原地区で128、別寒辺牛川・厚岸地区で57、霧多布地区で13、根室半島地区で3、風蓮湖・風蓮川地区で8、野付半島地区で2、オホーツク地方で3の計304繁殖つがいを確認しました。

＜タンチョウ標識調査＞

過去最多の合計28羽のヒナに標識しました。2羽のヒナを連れた家族が多く、5組の家族で2羽のヒナに標識したため、標識した家族の合計は23でした。

始めて標識した地点は十勝地方の3ヶ所と釧路地方の6ヶ所で、失敗した場所を含めて実際に捕獲体制に入る調査をしたのはべ36ヶ所(回)でした。

参加者は計55名、のべ185名になりました。

＜タンチョウ総数調査＞

1月29日～2月8日に実施し、のべ216名のボランティアの参加がありました。

1月31日以降道東沖に停滞した低気圧の影響で吹雪や風の強い日が多く調査に支障が出たため、予備日に調査を行なうなどの対応をして無事に終了できました。

前年と同様に50羽単位でまとめたタンチョウ保護研究グループとしての概算数は1,550羽、幼鳥はこのうち167羽となりました。

＜タンチョウ生息地分散＞

環境省の保護増殖事業で、事業名は「生息地分散のための給餌場利用個体行動追跡業務」です。

内容はタンチョウを捕獲してGPSロガーを装着することがテーマで、中茶安別給餌場の隣接林地に捕獲罠を設置しましたが捕獲に失敗しました。

＜シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全事業＞

一昨年度から環境研究総合推進費枠で実施している事業で、3年継続事業の3年目に当たります。

5月8～15日の日程でロシアに渡航し、昨年度と同様にハンカ湖周辺の湿原でヘリコプターによるタンチョウの繁殖(生息)状況の調査を行いました。

また、タンチョウ繁殖状況調査の釧路湿原地区は本事業の一部として行いました。

シマフクロウのチームは竹中健研究員が担当し、CCDカメラによる巣内の撮影と成鳥を捕獲してGPSロガーを装着して行動を分析する調査を行いました。

本事業の総決算として2月11日に北海道大学学術交流会館にて、市民向けシンポジウム「シマフクロウ・タンチョウを指標とした生物多様性保全：北海道の過去・現在・未来」が開催され、正富欣之副理事長と竹中健研究員が発表しました。

＜大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析＞

2月19～23日に百瀬理事長が韓国に出張し、Lee Kisupさん(RCC会員)と協力して、カンワ、ヨンチョン、チョロン地区の採餌場(水田)と国立傷病鳥収容センターで羽を採取しました。

また、ソウル動物園を訪問してサンプルの提供を要請しました。

今後、寺岡理事が韓国に出かけて資料の分析を行う予定です。

★保護・保全活動

＜タンチョウその他ツル類に関する講演・講習会＞

以下の講演会と学会発表を行いました。

- ・6月8日に東京で開かれた東邦大学理学部OB会(鶴風会)でタンチョウの現状について講演：百瀬理事長
- ・6月14日に松本で開かれた信州野鳥の会創立30周年記念会でタンチョウの現状について講演：百瀬理事長

- ・8月17日～26日に東京の立教大学で開かれた国際鳥学会と日本鳥学会で、推進費による研究結果の一部と近年の北海道に於けるタンチョウの営巣環境についてポスター発表：正富欣之副理事長
- ・10月22日に札幌で開かれた北海道猛禽類研究会でタンチョウの現状について講演：百瀬理事長
- ・10月25日に網走市の濤沸湖水鳥・湿地センターで開かれた環境学習講演会「濤沸自然教室」で、オホーツク地方のタンチョウの現状とタンチョウ標識調査の意義について講演：百瀬理事長
- ・11月6日～9日にドイツで開催されたIUCN/WIのツル専門家部会(CSG)の運営委員会で、タンチョウの現状について講演：百瀬理事長
- ・11月10日～13日にスペインで開かれたヨーロッパツル会議で、北海道のタンチョウ個体数の変化と調査の現状について発表：百瀬理事長
- ・11月29日に釧路市民学園講座でタンチョウとその現状について講演：百瀬理事長

＜タンチョウの事故防止対策＞

前年に続いてサントリー世界愛鳥基金からの助成を受けました。

環境省にある事故記録ファイルの提供を受け、事故例の分析と現場検証を行いました。

交通事故現場の多くは直線で、スピードの出せる道路上でのものであったことから、道東地域ではシカと共にタンチョウとの交通事故があることをドライバーにアピールするために配布用のチラシ4万枚を作成し、釧路・根室地域のレンタカー会社、自然関係のビジターセンター、ホテル等に持ち込み、来場するドライバーに広く配布していただいて注意喚起を促しています。

＜提言等＞

- ・北海道開発局池田河川事務所の実施する十勝川築堤ほかの工事に際して、タンチョウの生息に配慮すべき注意事項についてコメントしました。
- これは前年と同様で、飛行調査による営巣地点確認調査の結果に基づいて行っています。
- ・根室振興局の農村整備事業についてタンチョウの繁殖に悪影響を与えないためのヒアリングに対応しました。

＜会報の発行・ホームページ制作等＞

会報は3回、調査活動に参加するボランティアに対するTKGニュースレターは2回、其々発行しました。

ホームページの更新は、会報のアップや標識個体情報の更新など15回行いました。

＜出版物発行等(標識個体の情報展示、ほか)＞

標識個体の情報展示手段としての「標識鳥ファイル」を西岡会員が最新情報を整理して11月に更新し、日本野鳥の会 鶴居・伊藤サンクチュアリーと阿寒国際ツルセンターに置いてあるファイルを更新しました。

＜傷病個体の保護収容への協力等＞

5月9日に環境省釧路事務所からの応援要請を受け、中標津町で空港内に営巣したタンチョウの卵の収容に協力しました。

＜中標津俵橋湿原ゆめプロジェクト＞

今年もタンチョウの冬期用の餌を確保するために、畠をたててデントコーンの栽培を行なったが、トウモロコシは育ちませんでした。

冬に向けた自動給餌装置としてニオを設置するため、デントコーンの黍ガラを会員の榎原農場から提供を受けました。

今シーズンは、このニオをヒナ1羽連れの1家族とそれとは別にヒナのいない1つがいが利用し近隣で越冬したものと判断しています。

現場での活動はニオの撤収および種まきと除草等のため5～7月に計5日間、ニオ造りとニオの状態を観察し餌を補給するため10月～3月に9回、釧路と中標津在住の会員および「俵橋湿原ゆめプロジェクト」のメンバーが協力、分担して行いました。

＜キナシベツ湿原プロジェクト＞

・キナシベツ湿原の自然環境調査の一貫で、真野会員が中心となり、カスミ網を使った小鳥類の標識調査と目視による定点調査を9月27日から10月20日まで行い、23種2,995羽に標識放鳥しました。

★国際協力活動

＜国際タンチョウネットワーク(IRCN)と協力(中国のタンチョウ生息地とその周辺国境地帯における普及啓発のための国際プロジェクト、中国・韓国・ロシアにおけるタンチョウの生息状況把握のための情報交換等)＞

・7月14日～25日にかけて、中国のパンジン国家级自然保護区ホアンジドン湿原とファク市で、10月12～18日にシアンハイ国家級自然保護区で行なわれた学生達による教育普及活動(国際ネイチャースクール)に百瀬ゆりあさんが参加しました。

・イオン環境財団の助成を受け、「中国内陸部のツル類と希少水禽類の生息・水条件に関する現状把握調査」を実施しました。

10月3日～6日にかけて、中国スンナン平原での本調査に百瀬理事長が参加しました。

・10月9日～11日に中国のパンジン国家级自然保護区で国際タンチョウネットワーク(IRCN)のカウンシル会議が開催され、当グループから百瀬理事長が出席(百瀬ゆりあはIRCNの代表として出席)しました。

＜世界のツル関係者との交流及び情報交換＞

以下の件で道東来訪者への対応と国際会議での活動を行いました。

8月27日 来釧したモスクワ動物園のOlga Nesterenko 氏に道東のタンチョウを紹介

2015.9.17 来釧した韓国NGOのGREFとEERFのグループに道東のタンチョウの現状と関連施設を紹介、9月19日に開かれたGREFと釧路国際ウェットランドセンター共催のワークショップに参加(百瀬ゆりあ)

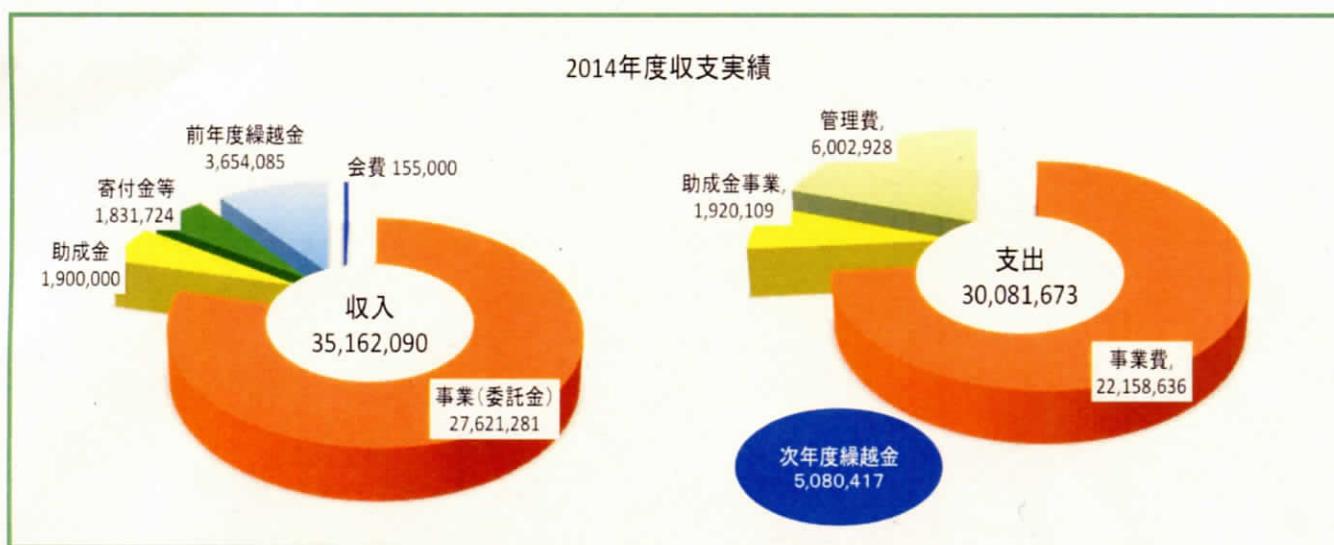
11月7日～9日 ドイツで開かれたIUCN/WIのツル専門家部会運営委員会に出席(百瀬理事長、百瀬ゆりあ)

12月12日～16日 国際ツル財団の道東ツアーに同行、参加者に道東のタンチョウの現状を紹介(百瀬理事長、百瀬ゆりあ)

12月20日 ナベヅルの生息地である韓国ソサン(Seosan)市から来釧した市の上級職員Mincheol Park 氏ら3名にタンチョウの現状を紹介(百瀬理事長)

1月16日～20日 東アジアフライウェイネットワーク釧路会議にオブザーバー参加し、会議参加者と交流・情報交換(百瀬理事長、百瀬ゆりあ)

3月25日～30日 中国・法庫(ファー)で開かれた第6回瀋陽法庫国際ソデグロヅル祭に出席、国際ナベヅルマナヅルネットワーク設立総会に参加(百瀬理事長)



2015年度活動計画

★ 調査研究活動

- ・タンチョウ生息状況調査:一年を通じて繁殖状況調査と生息数調査を行います。
- ・タンチョウ標識調査:ヒナへの標識と追跡調査を行います。
- ・大陸と北海道とのタンチョウの遺伝子解析:韓国の大連と北海道とのタンチョウの遺伝子解析:韓国の大連で羽毛を採取し、分析する研究に協力します。

★ 保護・保全活動

- ・タンチョウ生息地分散:生息地分散のための資料収集と環境の整備を進めます。
- ・傷病個体の保護収容への協力等:環境省が行なう傷病個体の保護収容等に協力します。
- ・中標津俵橋湿原プロジェクトの推進:同地をタンチョウの棲める湿原環境に回復させ、自然環境保全を継続させることを目的として、地元の社会環境調整を進めるとともにタンチョウの越冬地整備を行います。
- ・キナシベツ湿原保護のための活動推進:環境調査と将来の保護計画立案等に協力します。

★ 教育普及活動

- ・タンチョウ及びその他ツル類に関する講演・講習会を開催します。
- ・会報を発行するとともに、ホームページの更新を行います。
- ・出版物の発行等:標識鳥ファイルの更新と小冊子[湿地の神I, II, III]を配布します。

★ 國際協力活動

- ・国際タンチョウネットワークの活動(中国のタンチョウ生息地とその周辺国境地帯における普及啓発のための国際プロジェクト、中国、韓国、ロシアにおけるタンチョウの生息状況把握)に協力・参加します。
- ・世界のツル関係者との交流及び情報交換を行います。

調査活動報告

<繁殖状況調査>

4月25日～5月5日に十勝・釧路・根室・オホーツク地方でのセスナ機による繁殖状況調査を実施しました。

道東地方での全域調査は2年ぶりになります。

この調査には、環境省(釧路湿原地域)と帶広開発建設部(十勝川地域)の事業、日本野鳥の会との共同調査(厚岸・風蓮湖地域の一部)、エコトーンプロジェクトからの寄付金(オホーツク地域)が含まれています。



調査飛行機(中標津空港にて)

毎回のことなのですが、この時期は天候、特に雲の高さや海霧の侵入、そして強い横風などによって予定を変更しなければならない事態が発生します。

今回も帯広空港に着陸する予定を釧路空港に、中標津空港への着陸予定を釧路空港に変更しなければならない場合がありました。

機体の定期整備や悪天候のために調査を中止した日を含めて、今年の調査日数は11日間で、比較的順調に調査できました。

調査員が搭乗した飛行時間はのべ49時間でした。

今年は春の残雪が多かったためか、雪解けによる増水で釧路湿原の中央部などは大きな浅い湖状態になっていて巣に就いているタンチョウが見つかりませんでしたが、全体では過去最多の発見数となりました。

今回の飛行調査では巣に座っている440とヒナ連れの2家族を確認しましたので、合計では442繁殖つがいとなります。

今回の飛行調査の直後には環境省が道北地域でも飛行調査を行ないましたし、その後の標識調査に向けた地上調査や情報提供も合わせると今年北海道で繁殖したつがい数は450以上になるのは確実の状況です。

<標識調査>

今年の標識調査は昨年より10日近く早い6月20日から開始し、7月20日まで実施しました。

これは昨年のヒナが調査開始時から随分と大きく成長していたためなのですが、この調整が効き過ぎ？で開始当初に確認できたヒナの中にはまだ小さ過ぎの個体もいました。

今年は捕獲したヒナに足環を付ける際に性別判定用の採血と内部寄生虫を検査するための糞便の採取を行っています。

鶴公園で孵化し放鳥予定の1羽を含めると、今年は28羽のヒナに標識放鳥しましたので、昨年と同数のヒナに標識できました。



親と合流したヒナの243(2015年6月28日)

<俵橋湿原プロジェクト>

越冬するタンチョウが自然に近い状態で餌を確保できるようにする目的で、タンチョウの餌用に畑に残したままのトウモロコシを作る目的で畑を作っています。

昨年までは芽生えの段階でカラスに食べられてしまったり、雑草に負けて育たなかつたしていたので、今年は初めて除草剤を使い、畑全体を防鳥ネットで覆ってみました。

6月8日に俵橋湿原ゆめプロジェクトの中標津在住のメンバー3名と釧路からの3名で種蒔きをしました。

芽生えまでの段階では順調ですが、今後は遅れて芽を出してくる雑草との競争に勝てるかどうかハラハラしています。



俵橋湿原デントコーン畑にて

タンチョウ衝突事故防止啓発用チラシができました。

今年は3月に釧路市桜田で「153」(2011年生まれのオス)が交通事故死し、6月には厚岸でヒナの列車衝突事故がありました。

環境省と釧路市動物園の資料によると昨年は24羽が収容され、この内10羽が車や列車との衝突事故で死亡しています。

こうした事故を少しでも減らすために、タンチョウ保護研究グループでは、サントリー世界愛鳥基金の助成金を得てチラシを作成しました。

このチラシは主にタンチョウになじみの薄い道東地域以外からのドライバーに注意を促すと共に、地域としてタンチョウの保護をアピールすることも意識しています。

チラシは4万枚印刷し、すでにレンタカー各社の事業所ほかホテルやビジターセンターなどに配布をお願いしています。

夏季は車で遠出をすることも多くなります。

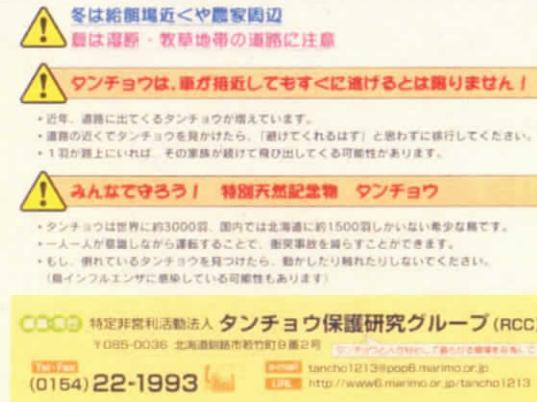
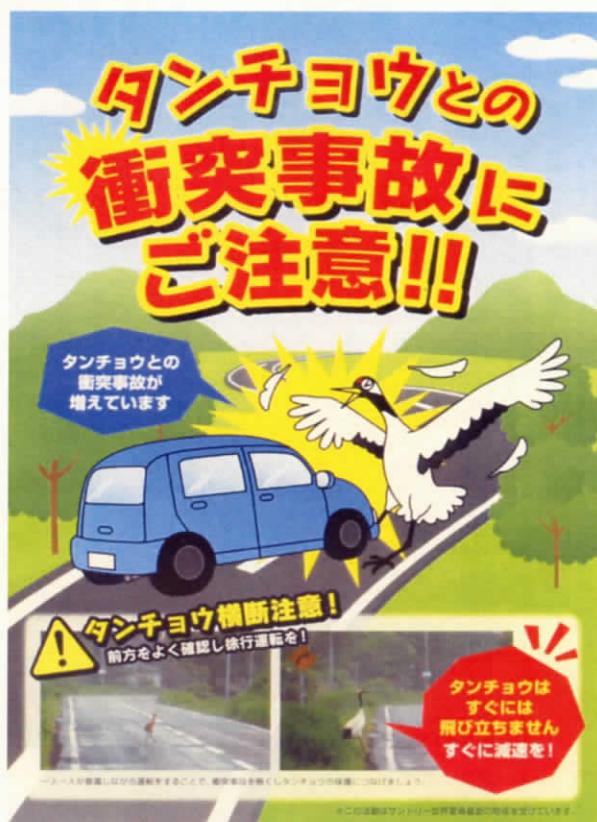
くれぐれもスピードは控えめに。

また、チラシを置いていただけそうな店舗、施設等がありましたら事務所までお知らせください。



在りし日の153

(2015年1月2日 鶴見台にて)



<活動記録> (2015年4月～7月)

- 4月3日 運営会議(8名出席)
4月25日～5月5日 飛行調査
5月8日 運営会議(9名出席)
5月15日 Tancho24号発送
5月23日 理事会(於:シルバーシティときわ台ヒルズ)
5月24日 総会(於:釧路市中部地区コミュニティセンター(コアかがやき))
5月27日 TKG News No.58発送
6月5日 運営会議(6名出席)
6月8日 傑橋湿原でトウモロコシの種まき
6月13日 タンチョウ標識調査の勉強会(於:コアかがやき)
6月20日～7月20日 バンディング調査
6月23日 北海道開発局池田河川事務所で十勝川の河川工事におけるタンチョウ保護対策に関する情報交換会に出席(百瀬)
7月27日～30日 Vth International Wildlife Management Congress(第5回国際野生生物管理学会)に出席、シンポジウムで発表(於:札幌、百瀬・正富欣之)

家族4羽に足環が付きました

百瀬邦和

標識調査ではタンチョウの家族関係を知ることも目的の一つにしていますが、足環の付いたタンチョウは全体の1割程ということもあり、ヒナが親から独立した後の親子関係についてはまだほとんど判っていません。

そんな中で、つがいの両方に足環が付いている数少ない番の一つで、今年はヒナにも足環を付けることができました。

このつがいは2009年生まれの123番(オス)と2010年生まれの131番(メス)で、2012年秋から一緒にいるところが目撃されていました。鶴公園のケージに2羽で飛び込む事件? を起こしたこともあります。

今回はいつも確認されていた牧場に続く放牧地で足環付きの成長2羽がヒナ2羽を連れていたのを発見し、ヒナに足環を付けることができました。

これまでのタンチョウの標識調査の中で親子4羽に足環が付いたのは初めてです。

今年の冬までは足環付きの4羽家族が観察できそうで、さらにその後の動きも楽しみです。

ちなみに、123番は兄弟の122番と一緒に標識され、兄(標識した時点では122番の方が大きかった)も今年初めて繁殖した模様です。

<会員 (7月30日現在)>

運営会員:27名、個人サポート会員:133名、団体サポート会員:15団体

Red-crowned Crane Conservancy (RCC) newsletter

TANCHO

Twenty-fifth issue August 2015

<表紙写真>

今年釧路市丹頂鶴自然公園で孵化し、足環(260)が付いたタンチョウのヒナで、野外放鳥される予定です。
(2015年7月25日 撮影)

特定非営利活動法人

タンチョウ保護研究グループ

編集:西岡 秀観

〒 085-0036

北海道釧路市若竹町9番21号

Tel/Fax 0154-22-1993

e-mail: tancho1213@pop6.marimo.or.jp

URL: <http://www6.marimo.or.jp/tancho1213>